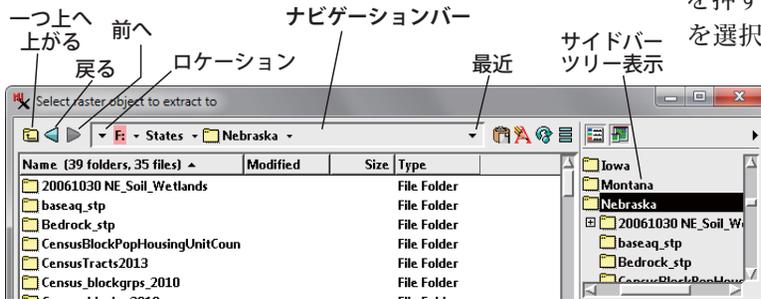


出力ファイルとオブジェクトを作成する

出力オブジェクトを作成する TNTgis 処理では、〈オブジェクトの選択〉ウィンドウの変形版を使用して、コンピュータのファイルシステム内の目的の場所に移動したり、新規フォルダを作成したり、プロジェクトファイルを選択、作成したり、出力オブジェクトに名前を付けることができます。



ファイル操作

ウィンドウ上部のナビゲーションバー(上図参照)には、現在のフォルダや現在のファイルへのパスの構成要素が表示され、左からドライブ文字やボリューム名で始まり、右に向かってフォルダやサブフォルダが続きます。パスの構成要素の最後(一番深い要素)には、名前の左側にアイコンがあり、そのアイコンがファイルかフォルダか、またはドライブかを識別しています。その下のリストには、現在のディレクトリや現在のファイルの中身が表示されます。リストのフォルダやファイル内を移動するには、リスト項目のアイコンを左クリックするか、ファイル名をダブルクリックします。

ナビゲーションバーのフォルダ名(またはドライブ名やボリューム名)をクリックすると、現在のパス内の任意のレベルにジャンプします。ナビゲーションバーの左側にある「一つ上へ上がる」アイコンを押すとディレクトリ階層で1つ上のレベルに移動します。パス内のドライブ名や各フォルダ名の右側には小さな矢印アイコンが現れます。このアイコンをクリックするとドロップダウンメニューが表示され、そのレベルのサブフォルダが選択できます。

閲覧リストの右側のサイドバーには、現在のフォルダパスのツリー表示を表示することができ、このツリー表示を使うことでもドライブやフォルダ間を移動することが出来ます。垂直スクロールバーを使用すると、コンピュータ内で利用可能なすべてのドライブとそのメインレベルフォルダをスクロールできます。フォルダアイコンの横にある「+」アイコンは、サブフォルダが含まれていることを示しています。このアイコンを押すとフォルダが展開され、サブフォルダが表示されます(アイコンは「-」に変わります。「-」アイコンを押すとフォルダが折りたたまれます)。フォルダを左クリックすると、そのフォルダが現在のフォルダに設定され、閲覧リストにフォルダの中身が表

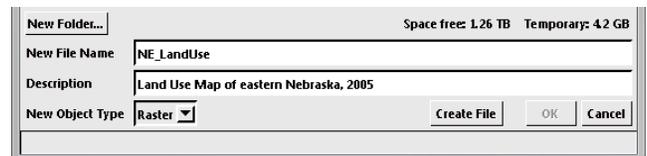
示されます。

[ロケーション]アイコン(ナビゲーションバーの左端の大きな下向きの矢印)を押すと、ドロップダウンメニューが表示され、ローカルドライブやネットワークドライブ等の上位のディレクトリ階層が選択できます。[最近]アイコン(ナビゲーションバーの右端の大きな矢印)を押すと、直近の処理で使われたパス(最大20件まで)を選択するためのドロップダウンメニューが表示されます。ファイル操作に関する詳しい情報については、テクニカルガイド「システム：使用するオブジェクトを選択する(System: Select Objects for Use)」を参照してください。

新規プロジェクトファイルを作成する

TNTgis で行ったほとんどの処理結果は、既存のプロジェクトファイルか新規のプロジェクトファイルの中に保存できます。既存のプロジェクトファイルに保存するには、そのファイルを含むフォルダに移動し、目的のファイルの中に保存します。

新規のプロジェクトファイルを作成するには、まず目的のフォルダに移動します。必要に応じて、[新規フォルダ]プッシュボタン(下図参照)を押すことで、その場所に新規フォルダを作成できます。〈フォルダの新規作成〉ウィンドウが開くので、フォルダに名前を付けます。このウィンドウで [OK] を押すと、〈オブジェクトの選択〉ウィンドウの現在のパスは自動的に新規フォルダのパスに更新されます。



[新規ファイル名]フィールドに新規プロジェクトファイルの名前を入力します。必要なら[説明情報]フィールドにプロジェクトファイルの説明を入力することもできます。適切な名前と説明を入力したら、[ファイルの作成]プッシュボタンを押します。ウィンドウの現在のパスは自動的に新規ファイルのパスに更新されます。

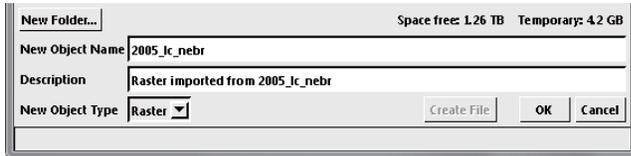
1つの出力オブジェクト

出力するプロジェクトファイルを選択または作成したら、出力オブジェクトに対して名前と説明を入力します。〈オブジェクトの選択〉ウィンドウの下の部分は、1つのオブジェクトと複数のオブジェクトを保存する場合で多少異なります。

処理後に1つの出力オブジェクトのみを作成する場合、ファイルが指定されると[新規オブジェクト名]と[説

(次ページに続く)

明情報]フィールドが表示されます(下図参照)。多くの処理では新規オブジェクトに対して、デフォルトのオブジェクト名と説明情報が提供されます。デフォルトで確定する場合は [OK] を押すと処理が実行されます。他のオブジェクト名と説明情報を入力することもできます。[新規オブジェクト名]か[説明情報]フィールドのどちらかにフォーカスがある場合(カーソルがフィールドにある場合)、[Enter] を押すと新しいテキストが確定され、処理が実行されます。



[新規オブジェクトタイプ]メニューには、作成される出力オブジェクトのタイプが表示されます。ほとんどの処理では、出力オブジェクトのタイプは処理によって固定されているか、処理ウィンドウの中で選択されます。この場合、メニューには固定のオブジェクトタイプのみが表示されます。リージョンマネージャで出力データを保存するなどのほんの一部の処理では、[新規オブジェクトタイプ]メニューに保存できるオブジェクトタイプの選択肢が表示されます(リージョンまたはベクタなど)。

複数の出力オブジェクト

複数のオブジェクトを保存する場合、〈オブジェクトの選択〉ウィンドウの下部分には [選択 (Selected)] リストが表示されます。[選択] リストには、[オブジェクト]列にデフォルトのオブジェクト名、[名前]列に[指定されていません-クリックして割り当て]が表示され、[説明情報]列は空白です(右図を参照)。ウィンドウ下部の[名前の自動割り振り]ボタンを押すと、各オブジェクトにデフォルトの名前が割り当てられます。これらのデフォルトの名前は [名前] 列に表示され、[OK] ボタンがアクティブになります。1つまたはすべてのオブジェクトに対して他の名前を付けたい場合は、[名前] フィールドでクリックし、テキストを入力します。すべてのオブジェクトに名前が付けられたら、[OK] または [Enter] を押します。(プロジェクトファイルを指定する前に [名前の自動割り振り] ボタンを使用すると、各出力オブジェクトは異なるプロジェクトファイルに同じ名前をもつオブジェクトとして保存されます)。

